

ソフトウェア技術の向上期待



電気通信大学教授（プログラミング言語）の久野靖さんの話
 日本はソフトウェアへの関心が低く、人材も不足している。今後、子どもたちがプログラミングを体験し、技術者になるか、ならなくてもコンピューターが理解できる人になれば、ソフトウェアの技術も上がるのではないか。

調べ隊 生活

スマホの普及で、子どもはコンピューターの操作が苦手になっており、大学生でもキーボードが打てない例もある。経済協力開発機構（OECD）の調査では、自宅や学校でのコンピューターの使用率が、日本は他国に比べて低い。

また、日本の学校は、解答が決まっている問題を考えさせることが少ない。プログラミングでは、自分で考える経験を積むことができる。

日本の教育現場 導入遅れ

◆世界各国・地域のプログラミング教育

国・地域	初等 (小学校 に相当)	前期中等 (中学校 に相当)	後期中等 (高校に 相当)
日本	なし	必修	選択
英国(イングランド)	必修	必修	選択
ロシア	必修	必修	必修
ハンガリー	必修	必修	選択
香港	なし	必修	選択
シンガポール	なし	選択	選択

※文部科学省の資料(2014年度)などから

海外ではプログラミング教育を重視しており、専門家からは日本の遅れが指摘されている。

日本は小学校では必修になっていない。中学では、「技術・家庭」で必修だが、学ぶのは数時間程度。高校では選択で、「情報」の授業で、「情報の科学」を選択すると、プログラミング教育がある。

苦手意識なくなり 大人でも

※取材を終えて プログラミングがインターネット上でできると知って、自分でもやってみた。キャラクターを回転させたり、大きさを変えたり。プログラミングの順番を間違えると、キャラクターがうまく動かなくなる。コンピューターの原理が何となく理解できて、苦手意識もなくなるので、大人でもお勧めだ。